

5(6)教科7科目平均点(900点満点)は、

文系型 547.5 点(+9.4点)、

理系型 540.7 点(+3.2点)!

基幹科目は英語ダウン、国語・、数学・Bアップ。
選択科目は地歴、公民の好調、理科の不振で明暗

旺文社 教育情報センター 17年2月

現行課程最後の17年センター試験は志願者56万9,950人、受験者52万4,603人と、いずれも2年連続の前年割れとなった中で実施された。私立大のセンター試験参加増や過去最高の現役志願率など、センター試験の入試環境は拡大の方向にあるものの、少子化の影響によりセンター試験の志願者・受験者とも減少期に入ったようだ。

大学入試センターより発表された「平成17年度大学入試センター試験実施結果の概要」を見ると、科目別の平均点は英語、生物B、総合理科などのダウンに対し、国語・、数学・B、地歴B科目、現代社会などがアップ。その結果、5(6)教科7科目の加重平均点(900点満点)は文系標準型547.5点、理系標準型540.7点となり、ともに前年よりアップした。

過去のデータも含め、センター試験の実施結果をさまざまな角度から分析し、以下にビジュアルデータとしてまとめた。

文系型、理系型の5(6)教科7科目

国公立大のセンター試験科目は15年まで、5教科6科目(文系・理系共通;800点満点)が主流であったが、16年からは国立大を中心に5(6)教科7科目(900点満点)が主体となっている。17年は国立大の約93%、約7万2,000人(入学定員に対する割合約75%)、公立大の約39%、約3,800人(同、16%)が5教科7科目以上である。標準的な受験科目の編成としては、次の2タイプである。

文系標準型(900点満点) = 国語 + 地歴 + 公民 + 数学2科目 + 理科1科目 + 英語

理系標準型(900点満点) = 国語 + 地歴・公民から1科目 + 数学2科目 + 理科2科目 + 英語

このため、各科目の平均点と受験者数から割り出す総合平均点(加重平均点)も、文系型と理系型とに分けて算出した。

文系標準型平均点 = 547.5点(前年より9.4点アップ)、理系標準型平均点 = 540.7点(同、3.2点アップ)であった。基幹科目は、英語の13.9点ダウンに対し、国語・が5.4点、数学・Bが6.8点のそれぞれアップ、数学・Aは0.8点ダウンでほぼ前年並み。他方、選択科目は、理系受験者の比較的多い地理B(+8.1点)や現代社会(+12.9点)のアップと、文系受験者の多い生物B(-11.1点)や総合理科(-8.3点)のダウンが明暗を分けたようだ。

各科目の平均点、受験者数等は、次頁の一覧を参照。

平成17年度大学入試センター試験(本試験)平均点一覧

<平成17年2月3日大学入試センター発表>

教科名	科目名	平成17年(確定)		平成16年(確定)		対前年比較	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
文系標準型平均点(900点満点)		-	547.5	-	538.1	9.4	
理系標準型平均点(900点満点)		-	540.7	-	537.5	3.2	
国語 (200点)	国語	45,168	116.9	49,436	121.0	▲ 4.1	
	国語	449,906	119.6	460,898	114.2	5.4	
地理歴史 (100点)	世界史A	2,046	44.3	2,271	46.0	▲ 1.7	
	世界史B	93,770	63.2	100,438	61.5	1.7	
	日本史A	5,155	54.8	5,920	45.2	9.6	
	日本史B	152,072	59.3	154,742	56.5	2.8	
	地理A	7,663	65.7	7,858	60.0	5.7	
	地理B	109,805	70.2	119,502	62.1	8.1	
公民 (100点)	現代社会	198,746	70.2	215,777	57.3	12.9	
	倫理	51,431	67.0	48,957	69.9	▲ 2.9	
	政治・経済	64,251	64.6	65,391	61.5	3.1	
数 学	数学 (100点)	数学	13,428	48.0	15,883	51.9	▲ 3.9
		数学・A	370,156	69.4	382,014	70.2	▲ 0.8
	数学 (100点)	数学	11,738	39.5	13,566	32.9	6.6
		数学・B	326,674	52.5	339,071	45.7	6.8
		工業数理	85	59.3	79	55.9	3.4
		簿記	1,120	54.9	1,172	60.3	▲ 5.4
		情報関係基礎	600	54.8	633	55.6	▲ 0.8
理 科	理科 (100点)	総合理科	78,959	48.4	53,971	56.7	▲ 8.3
		物理 A	1,746	66.5	2,060	62.8	3.7
		物理 B	140,528	60.0	149,592	62.9	▲ 2.9
	理科 (100点)	化学 A	6,177	63.2	6,874	61.7	1.5
		化学 B	209,839	66.1	219,416	54.3	11.8
		地学 A	3,810	55.9	5,096	57.9	▲ 2.0
		地学 B	18,795	64.1	19,373	63.7	0.4
	理科 (100点)	生物 A	8,707	55.9	10,077	65.3	▲ 9.4
生物 B		176,849	51.6	182,654	62.7	▲ 11.1	
外国語 (200点)	英語	520,048	116.2	535,944	130.1	▲ 13.9	
	ドイツ語	102	133.1	105	142.6	▲ 9.5	
	フランス語	149	132.0	154	139.6	▲ 7.6	
	中国語	372	169.1	409	148.0	21.1	
	韓国語	213	158.1	174	153.6	4.5	

- 注) 1. 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴と公民2科目受験(200点)、数学(100点)、数学(100点)、理科、合わせて集計(100点)、外国語(200点)の6教科7科目の加重平均点。
 2. 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ1教科として集計(100点)、理科2科目受験(2科目受験組、及び3科目受験組における平均点の高得点2科目から算出した200点)とする5教科7科目の加重平均点。文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数を基に旺文社が算出(小数第1位まで)。
 3. 5教科6科目(文・理系共通の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は540.5点で、16年より2.0点のアップ。
 4. 得点調整は、対象科目間の最大平均点差が「化学 B - 生物 B」=14.5点で、20点差以内に収まり、実施されなかった。

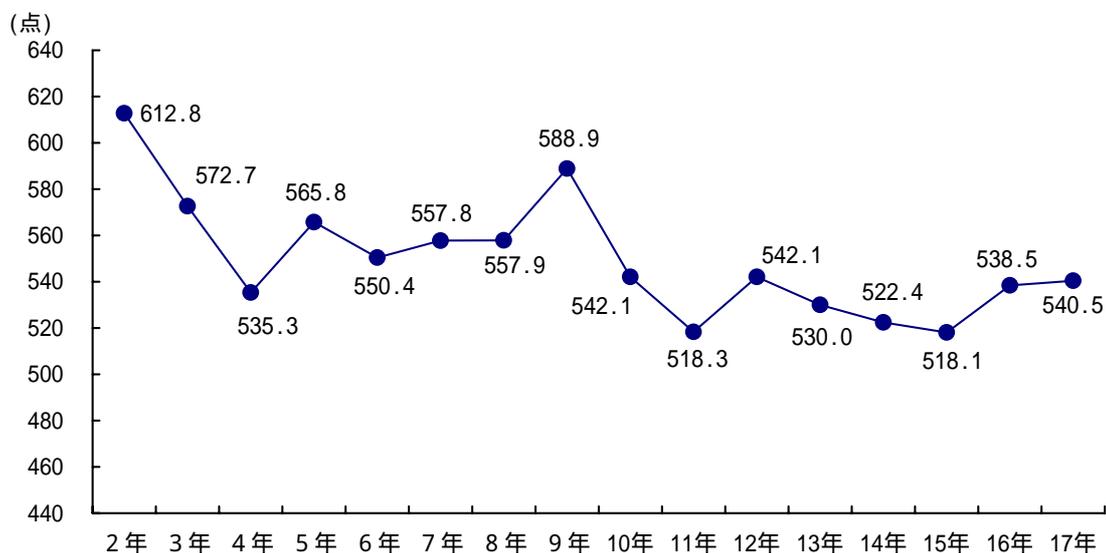
5 教科 6 科目(文・理系型共通)平均点の推移

過去の文・理系型共通の 5 教科 6 科目の平均点(加重平均点、以下同)と比較するため、17 年の 5 教科 6 科目平均点を算出した。結果は 540.5 点(900 点満点に換算、以下同)で、前年より 2.0 点アップした。平成 2(1990)年のセンター試験開始以来、17 年までの 5 教科 6 科目の平均点の推移を下图に示した。

4 年は英語、数学、物理などのダウンで、平均点は前年より 37.4 点ダウンした。9 年は現行課程入試が始まった年で、数学・A、数学・B、英語のアップで平均点は、8 年より 31.0 点アップした。10・11 年とも、国語・、数学・A、英語などのダウンで、特に 11 年の平均点は 518.3 点(得点率 57.6%)まで低下した。14 年は物理 B、数学・B の大幅ダウン、国語・の大幅アップで、「文高理低」となり、平均点は 522.4 点。15 年は、英語の大幅アップに対し、国語・と数学・B が大幅にダウン。結局、基幹 3 科目のアップ・ダウンが相殺する形となったが、平均点は 11 年をわずかに下回る 518.1 点で史上最低を記録。16 年は国語・の大幅アップをはじめ、数学・A、英語のそれぞれアップなど、基幹 3 科目の上昇が全体の平均点を大きく押し上げた。

17 年は、英語が 13.9 点ダウンしたものの、国語・の 5.4 点、数学・B の 6.8 点アップに加え、数学・A が小幅なダウン(-0.8 点)に留まったこと、受験者の多い選択科目の日本史 B や地理 B、現代社会、化学 B などがアップしたことから、前年よりアップした。

センター試験(本試) 5 教科 6 科目平均点(文・理系型共通; 900 点満点に換算)の推移



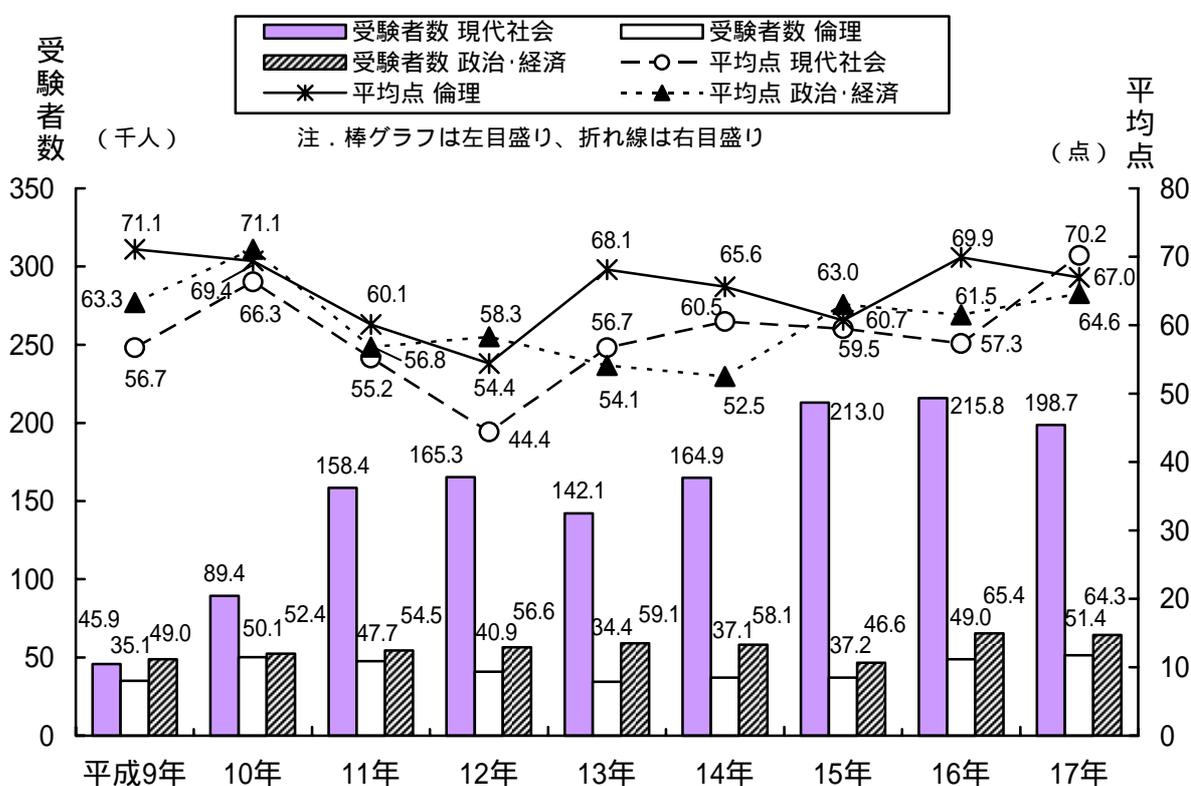
注) 大学入試センター発表の科目別平均点と受験者数から、5 教科 6 科目(地歴・公民合わせで 100 点、理科 1 科目として 100 点<文・理系型共通>の 800 点満点)の加重平均点を旺文社が算出。16 年からの 5(6)教科 7 科目(900 点満点)に合わせ、900 点満点に換算。

公民の受験者数、前年の史上最多から一転、4.8%減。現社の平均点、大幅アップ
 9年の現行課程入試から、社会は地歴と公民に再編された。公民の方が地歴より与し易
 いとみられ、15年までは、地歴から公民への受験生の流れや、高得点を期待した“公民保
 険”を掛ける「地歴・公民ダブル受験」の傾向が見られた。16年は、公民が文系標準型の
 “必須科目”となったことなどから、史上最多の受験者数を記録した。

17年はセンター試験全体の受験者数減に伴い、公民の受験者数も前年より1万5,697人
 減(前年比 - 4.8%)の31万4,428人となった。各科目の受験者数の増・減は、当該科目の
 前年平均点のアップ・ダウンに影響されているようだ。因みに、前年、公民の中で唯一平
 均点がアップした倫理は今回、受験者を2,474人(前年比5.1%)増やしている。

例年、受験者数の多い現代社会の平均点は、12.9点アップの70.2点(得点率70.2%)。

公民[現社・倫理・政経]の受験者数 & 平均点の推移 (本試験)



11年までは現社の受験者数が毎年倍増し、12年には公民全体としてそれまでの最多を記録した。
 しかし、平均点は下降傾向にあり、12年は現社と倫理で史上最低となった。

14年は、前年に平均点が大幅アップした現社と倫理で受験者が増え(現社16.1%、倫理7.7%)、
 全体としても前年比10.4%の増加に転じた。

15年は、倫理と政経が前年の平均点ダウンから敬遠され、受験者数は、倫理が前年並み、政経
 が19.9%減となったものの、現社は前年より約4万8,000人(29.2%)増えた。

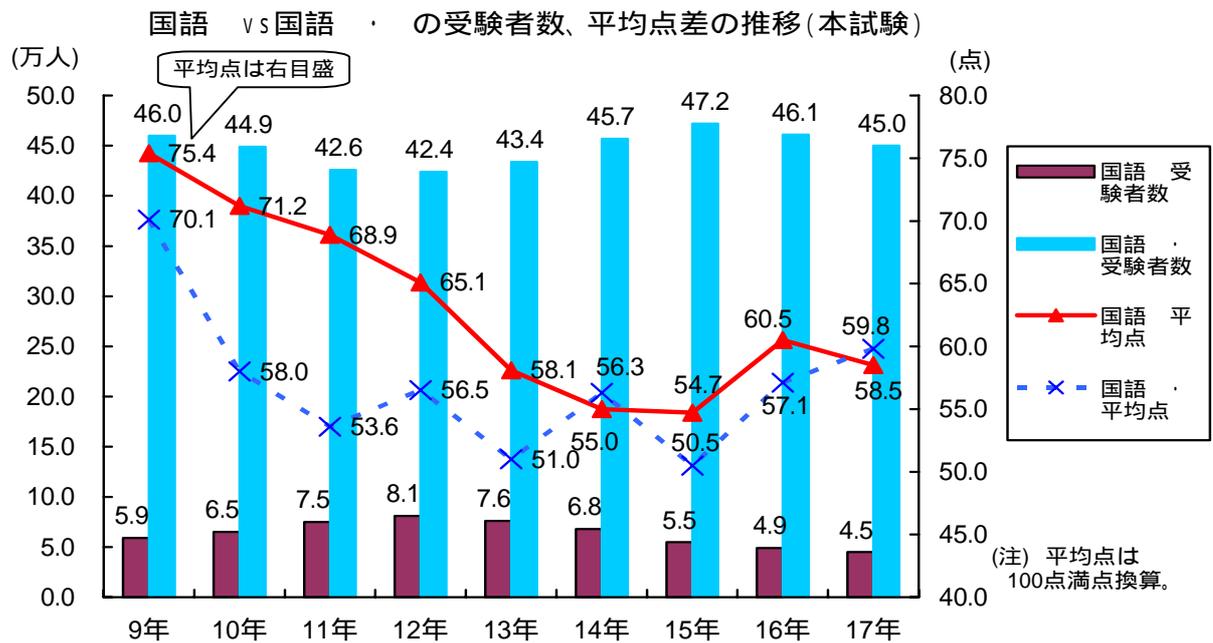
16年から公民は文系標準型の“必須科目”となり、16年の受験者数は33万人超の史上最多。

国語の平均点較差と受験者数

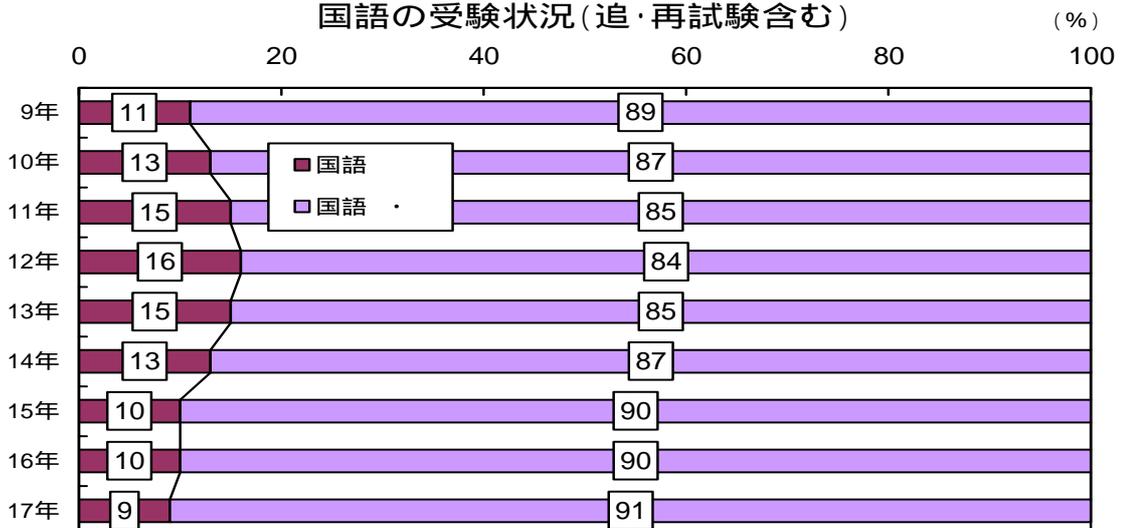
センター試験の国語と国語・との違いは、科目の特性から必ずしも明確ではなく、両者の大幅な平均点較差(国語 > 国語・)などを問題視する向きも少なくない。

両科目がスタートした9年からの平均点較差の推移を見ると、11年の15.3点差(国語 > 国語・)をピークに縮小し、14年はこれまでとは逆に、国語・の平均点が国語を1.3点上回った。15年から再び国語が上回り、16年は3.4点差となっていたが、17年は3年ぶりに国語・が国語を1.3点上回った。

なお、国語の受験者数は12年をピークに減少している。



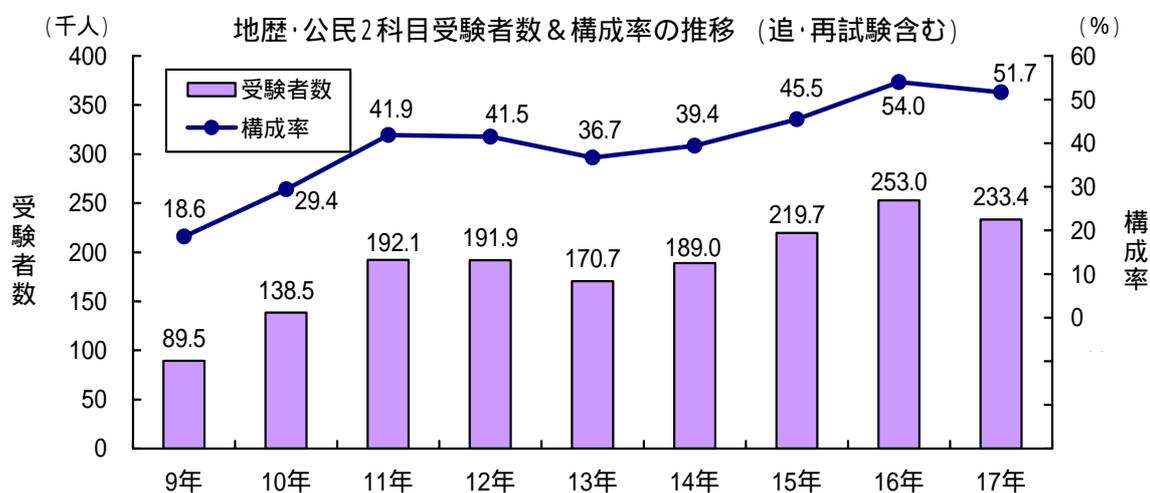
国語の受験状況(追・再試験含む)



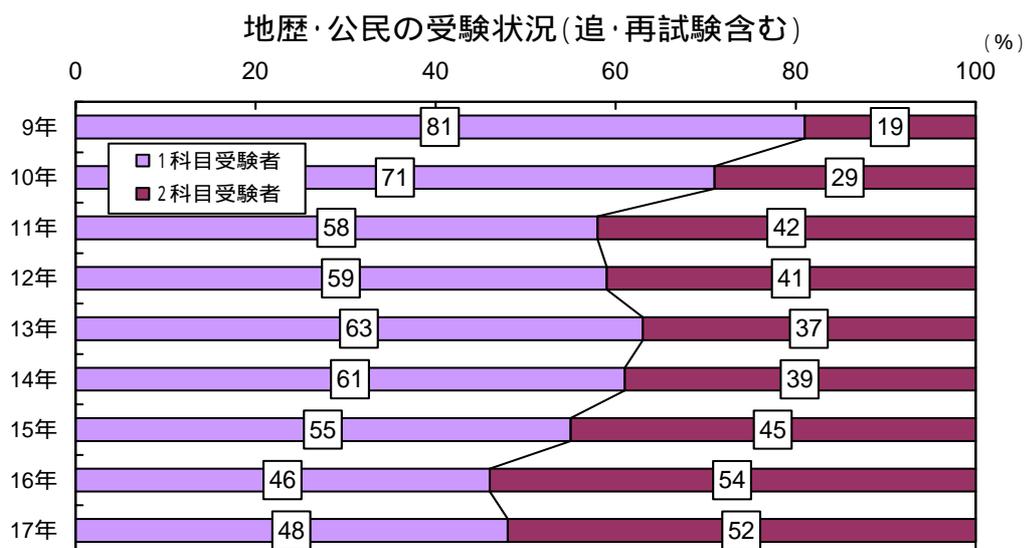
地歴・公民2科目受験者数の推移

地歴・公民2科目を課す大学・学部は15年まで少なかったが(15年; 国立6大学6学部、公立2大学2学部が2科目必須)、高得点を期待した“公民保険”による「地歴・公民ダブル受験」の傾向が強く、11年までは2科目受験者数が激増した。12・13年は、それぞれ前年の公民の平均点ダウンの影響などから減少したが、14年から再び増加に転じた。16年は5(6)教科7科目化で、国立50大学108学部、公立5大学7学部で地歴・公民2科目必須となったため、2科目受験者は一気に増え、約25万3,000人の史上最多を記録。地歴・公民受験者に占める2科目受験者の割合(構成率)も、54.0%に達した。

17年の地歴・公民2科目必須は国立56大学120学部、公立8大学10学部と、前年より増えたが、センター試験全体の受験者数減に加え、前年の公民平均点ダウン(倫理を除く)による“公民保険”組の減少などで、地歴・公民2科目受験者数、構成率とも前年を下回った。



注: 「構成率」は、地歴または公民の実受験者数(1科目・2科目受験)に占める、2科目受験者数の割合。



理科 2 科目受験者数の推移

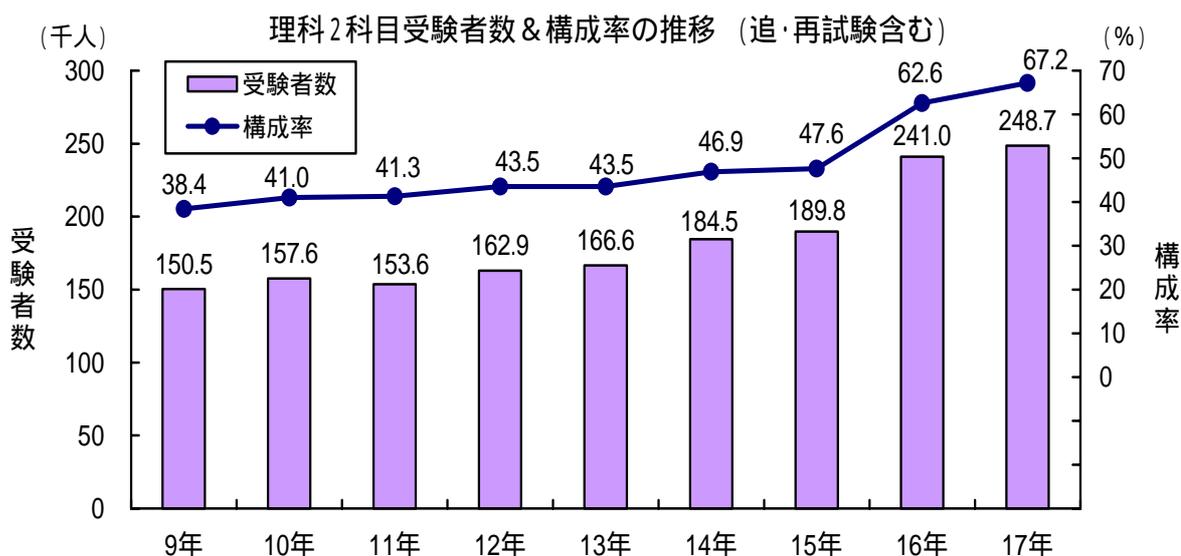
受験生の理科離れや学力低下、履修科目の不揃いなどを背景に、理系を中心に理科 2 科目化が数年前から進んでおり(15 年 ; 国立 37 大学 57 学部、公立 5 大学 5 学部が 2 科目必須)、12 年以降、2 科目受験者は毎年増加している。16 年は 5(6)教科 7 科目化で国立 68 大学 238 学部、公立 21 大学 32 学部で 2 科目必須になったことに加え、試験枠が増えて 3 科目受験が可能になったことなどから、2 科目(3 科目受験含む)受験者数は一気に増えて、24 万人超。理科受験者に占める 2 科目(3 科目受験含む)受験者の割合(構成率)も約 63%に達した。

17 年は、理科 2 科目必須が国立 71 大学 252 学部、公立 27 大学 44 学部とさらに増加したことに加え、総合理科を含む 2 または 3 科目受験の増加により、2 科目(3 科目受験含む)受験者数は前年より 7,667 人(3.2%)増の 24 万 8,711 人と、史上最多を記録。2 科目(3 科目受験含む)受験者の構成率も前年比 4.6 ポイントアップの 67.2%に達した。

< 総合理科の受験者数、46%増の 7 万 9,000 人 >

総合理科の受験者数は 14 年 81.6%増、15 年 47.8%増から、16 年は 314.0%増の約 5 万 4,000 人に激増した。これは、他の理科 4 単位科目(B 科目)より比較的平易だとみられたこと、2 単位科目(A 科目)とは異なり、理科の選択指定科目(2 科目受験も含め)となっていること、地歴受験の後、理科 や理科 受験までの待ち時間(16 年から理科の試験枠 3 コマに拡大)の有効活用として、高得点を期待する(“ 総理保険 ”)教員養成などの文系受験者が増えたこと、専門学科や総合学科など、普通科以外の受験者が増えたことなどによるとみられる。

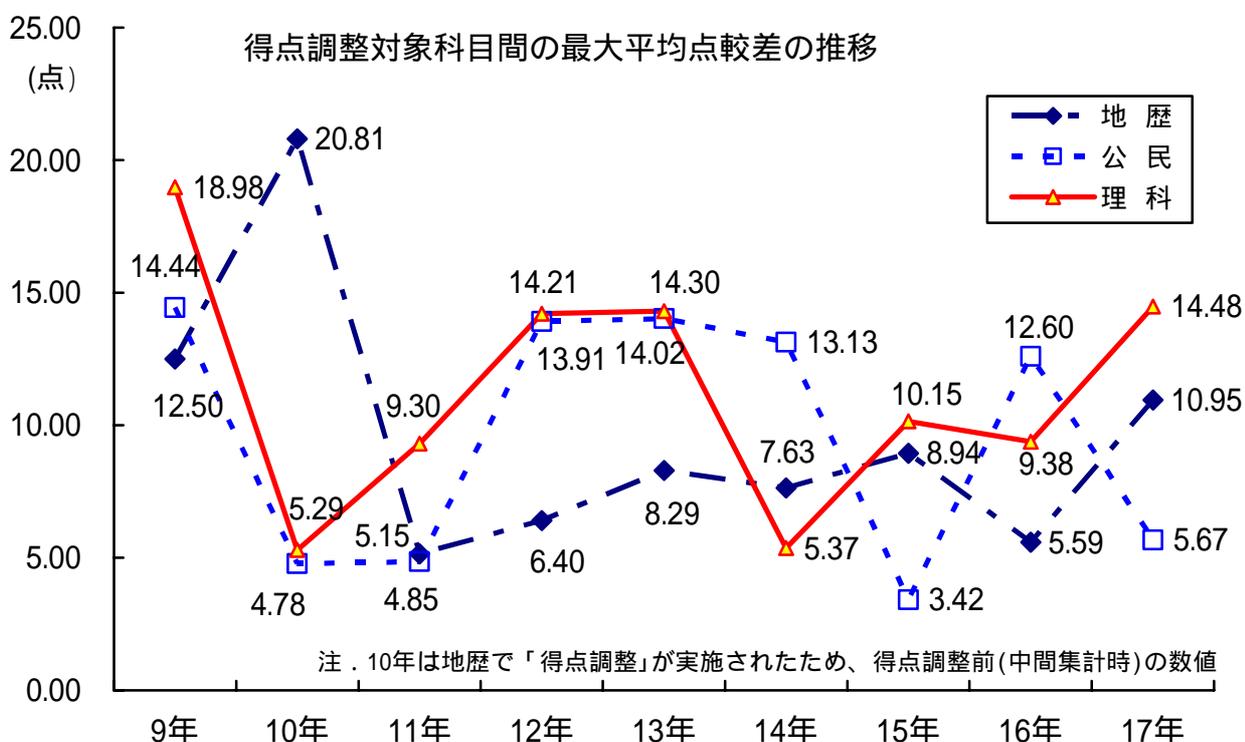
17 年もこの傾向は続き、各科目軒並み受験者減の中、前年より 2 万 4,988 人(46.3%)増の 7 万 8,959 人に達した。なお、理科受験者(延べ)に占める総合理科の受験者割合(構成比率)は、地学 B(2.9%)より 4 倍以上高い、12.2%(16 年は 8.3%)を占める。



得点調整対象科目の平均点較差

センター試験の選択科目間における大幅な平均点差に対しては、「得点調整」が実施される場合がある。得点調整は、「地歴と理科のB科目間、及び公民の選択科目間で、原則として20点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる」と、実施される。

下図は9年以降の得点調整対象科目間の最大平均点差の推移を示したものである。17年の得点調整対象科目間の平均点差をみると、地歴；地理B - 日本史B = 10.95点、公民；現代社会 - 政治・経済 = 5.67点、理科：化学 B - 生物 B = 14.48点で、いずれも得点調整のガイドライン以内に収まり、得点調整は実施されなかった。



< 得点調整の実施 >

これまでの得点調整実施の有無をみると、10年は地理Bと日本史Bとの平均点差(地理B > 日本史B)が20点以上(中間集計時点)となったため、世界史Bも加えた地歴3科目間で得点調整が実施された。

また、グラフにはないが、共通1次時代(旧課程試験)の平成元(1989)年にも理科で実施(物理・生物の得点を修正)された経緯がある。

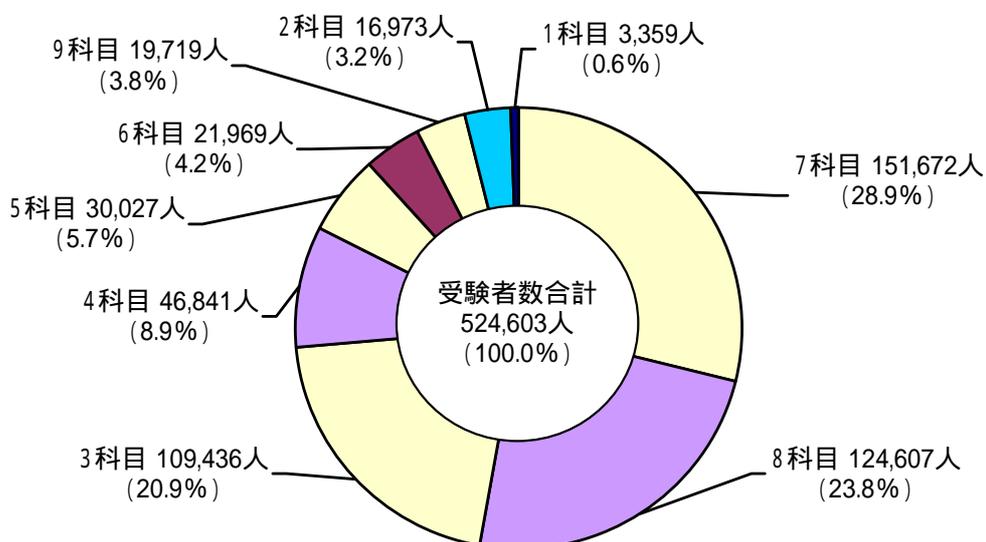
受験科目数別の受験状況

センター試験は6教科32科目から出題され、最大9科目まで受験できる。

国公立大のセンター試験科目は15年まで、5教科6科目が主流であったが、16年からは国立大を中心に5(6)教科7科目が主体となり、17年は国立大の約93%、入学定員の約75%、公立大の約39%、入学定員の約16%がそれぞれ5教科7科目以上である。

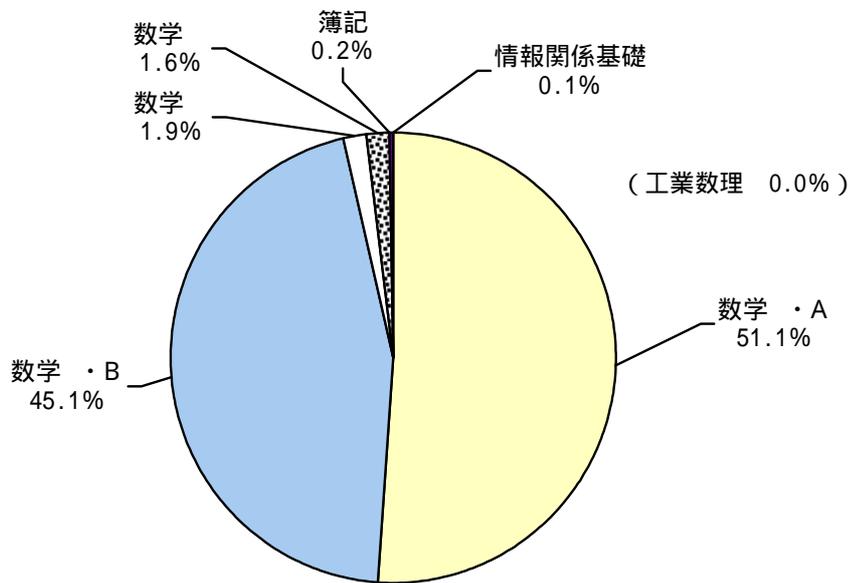
他方、私立大のセンター試験利用入試科目は、大半が2、3科目であるが、多くの科目を受験した場合、高得点の科目が採用される。こうしたことから、7科目以上の受験率が年々アップし、特に16年以降は急増している。

平成17年センター試験 / 受験科目数別受験者数

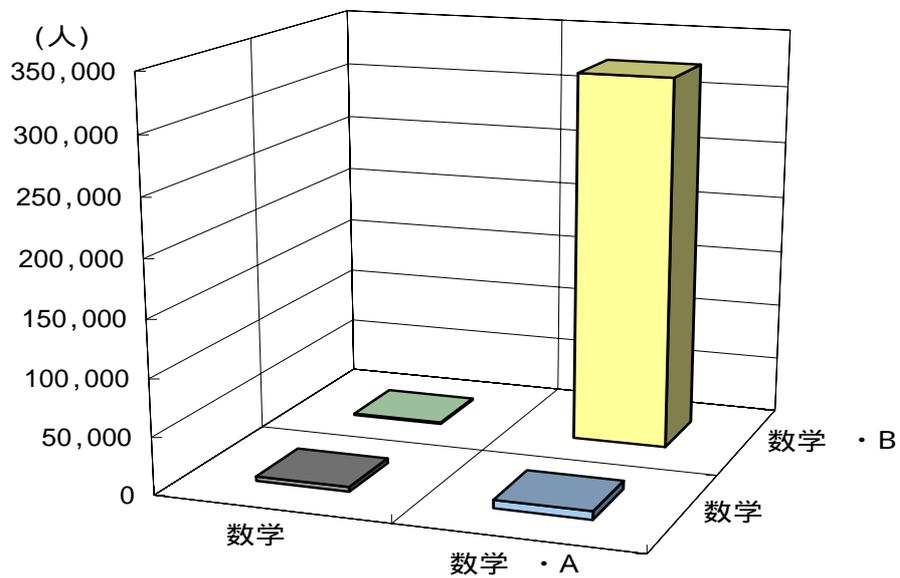


注.()内は受験者数合計に対する当該科目受験者数の割合(%)

数学延べ受験者の構成比率（追・再試験含む）

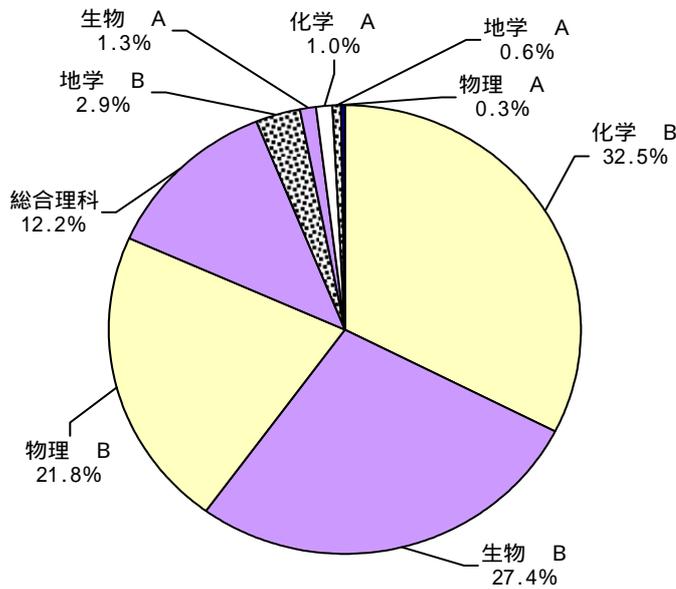


数学2科目受験者の内訳（追・再試験含む）

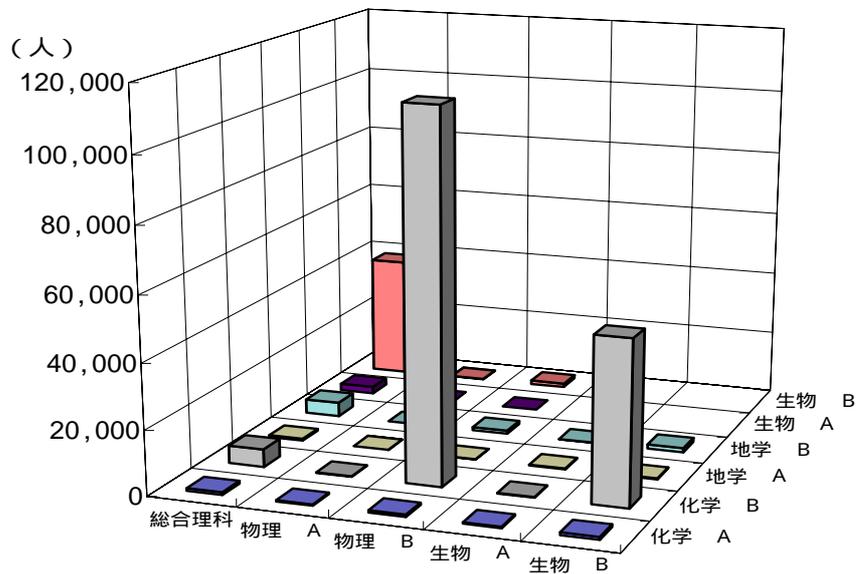


	数学	数学・B
数学	4,212	1,375
数学・A	7,394	325,012

理科延べ受験者の構成比率（追・再試験含む）

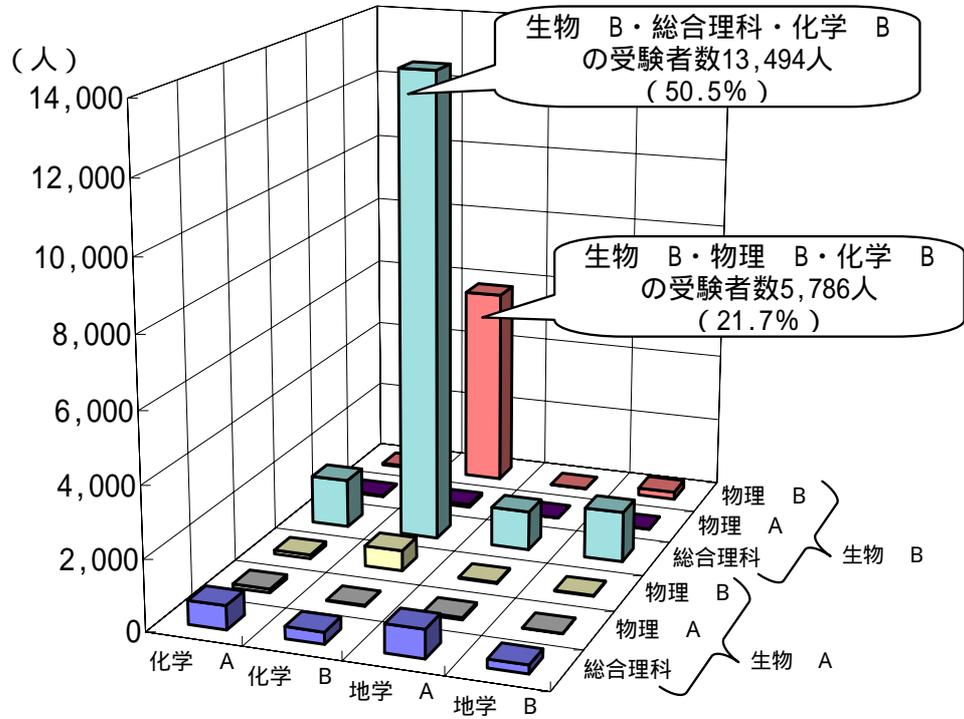


理科 2 科目受験者の内訳（追・再試験含む）



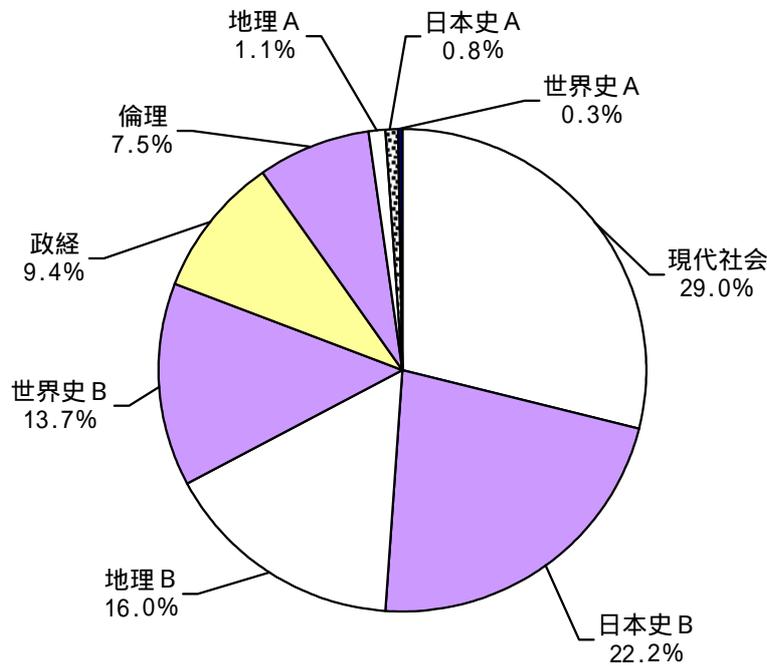
	化学 A	化学 B	地学 A	地学 B	生物 A	生物 B
総合理科	852	5,537	570	4,474	2,121	38,267
物理 A	416	196	56	41	56	53
物理 B	649	112,610	95	1,042	34	1,177
生物 A	409	192	246	112		
生物 B	869	50,282	326	1,326		

理科 3 科目受験者の内訳 (追・再試験含む)

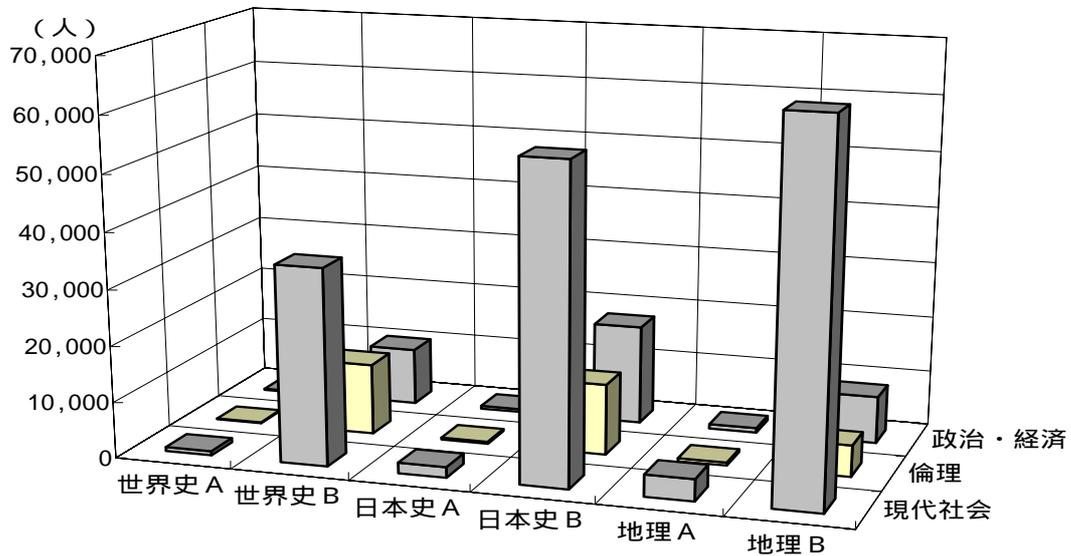


理科		生物 A			生物 B		
		総合理科	物理 A	物理 B	総合理科	物理 A	物理 B
理科	化学 A	676	117	108	1,403	36	43
	化学 B	336	27	589	13,494	77	5,786
	地学 A	804	61	35	1,125	17	15
	地学 B	242	9	26	1,443	9	225

地歴・公民延べ受験者の構成比率（追・再試験含む）



地歴・公民の 2 科目受験者の内訳（追・再試験含む）



	現代社会	倫理	政治・経済
世界史 A	736	164	210
世界史 B	35,038	12,705	10,204
日本史 A	1,867	387	530
日本史 B	56,024	12,658	17,824
地理 A	3,883	527	835
地理 B	65,734	5,597	8,433